

すぽっとライト

NO. 27

四国運輸局では、消費者ニーズや消費者行政上の課題を把握し、その結果を行政に役立てていくことを目的として公共交通機関の利用者等を対象にインタビューを行っています。

今回は、香川県の伊吹島～観音寺の航路利用者の方に船内で話を伺いました。

この航路は、離島航路整備法に基づく国庫補助航路で、国や自治体の補助を受け、維持されています。



伊吹航路の概要

【事業者】 観音寺市

【航路】 伊吹～観音寺、片道距離 12km

【運航】 4便/日

《時刻表》	1	2	3	4
伊吹発	7:00	9:00	13:30	17:10
観音寺発	7:50	11:20	15:40	17:50

運賃：500円、所要時間：25分

【伊吹島の概要】

瀬戸内海の燧灘(ひうちなだ)にある伊吹島は人口 695 人(H23.7 現在)、観音寺港より西約 10km に位置し、周囲は 5.4km、面積 1.05 km²で有人島としては香川県西端となる。江戸時代以前から四季折々の民族宗教行事が続けられている。良質ないりこ(煮干し)の産地として有名で、漁期の 6 月～8 月は島が活気に溢れる。

航路は島の南側の真浦港と観音寺港を結んでいる。

★航路利用感想・意見及び要望

当日は、船内で利用者にお話を伺うために、観音寺港発第2便である 11:20 の便に乗船する事にしました。

観音寺港には出港時刻の30分前に到着しましたが、伊吹港発 9:00 の折り返し便となるため、船は既に岸壁に停泊中でした。

船内に乗り込むと、1 階と 2 階に客室があり、冷房が入っていることから、この暑い時期には有り難いし、座席スペースも広く快適な空間です。

2階の後部デッキにも椅子が設置されており、椅子前のスペースでは自転車、バイクのみならず、ダンボール等で梱包された、食料品、生活用品があちらこちらに見られます。

島での生活に必要な不可欠なものは、この航路を利用して、本土でまとめて購入して自宅まで持ち帰られており、便利な生活に慣れきっている私たちには、島での生活の大変さが垣間見えました。

乗客は高齢の方の利用が多数だろうと想像していましたが、工事関係者、金融機関従業員、観光客等、幅広い年齢層の方が利用されており、当該便が、仕事等で利用するのには最も適したダイヤなのだろうと思いました。

船は、定刻の 11:20 に観音寺港を出港しました。

天候は晴れて、波も穏やか、船内から島を見ると海岸沿いには、いりこ工場が多数建ち並んでいます。

目の前の海で捕れた新鮮な鰯を、すぐに海岸沿いの工場で加工するため、良質ないりこ(煮干しいわし)が出来るそうです。

所要時間 25 分で伊吹島に到着すると、島在住の方は港に駐輪していたバイクに荷物を積むや、細くて急な坂道を一目散に走って行かれました。

この島では、バイクが日常の足になっていることを痛感しました。

さて、船内では11名の航路利用者にインタビューをさせていただきました。

以下は、主な意見・要望等の概要です。

○増便について

伊吹島発 13:30 の次の便は、最終の 17:10 となることから、間の 15 時頃に一便でも運航していただければ、利用利便がアップするとの意見が多かった。

○欠航等について

冬場は、風の影響を受けやすい航路であるため欠航が多い。

観音寺港からは仕事に行けないし、伊吹島からの通学生は学校を休まざるを得なくなる。船舶の改良(フェリー化含む)等を要望する意見もあった。

★航路利用者へのインタビュー概要

・女性 60歳代 観音寺市在住

観音寺郵便局に勤務しています。

日曜日以外の毎日、観音寺港発 11:20 の便に乗船し、到着後は島内の郵便の配達及び収集を行っています。

島内には、特定郵便局が1局あります。

坂が非常に多く、道も狭いためカブ(原付バイク)で各家を回っています。

伊吹島での仕事も今年で24年目になります。

伊吹島発 17:10 の最終便で観音寺まで戻っています。

運航ダイヤについても、この時間にすっかり体が馴染んでおり、十分に満足しています。

・女性 10歳代 伊吹島在住

三豊市高瀬町の高校に通学している高校2年生です。

今日は夏休み中の補習で高校に行っていましたが、普段は毎日、伊吹島発 7:00 の始発便に乗船し、観音寺港から JR 観音寺駅まで自転車で 2km 程度を走り、JR を利用し学校の最寄り駅である高瀬駅で下車して通学しています。

帰りは、観音寺発の最終便である 17:50 の便に乗船して家に帰っていますが、時間的な余裕があれば、もっと学校の友達たちとも遊びたいと思います。

観音寺港発が 19:00 とか 20:00 頃の便があればいいのですが。

島に住んでいる方とのギャップはあるかも知れませんが・・・。

・男性 80歳代 観音寺市在住

伊吹島に家があり、月に1回程度家の管理のために島を訪れます。現在は、病院への通院等を含めた生活上の利便を考え、観音寺市内に住んでいます。

伊吹島発 13:30 の便のあとは、最終の 17:10 になってしまいます。

無理は言えませんが、15:00 頃に一便あれば便利なのですが。

・男性 50歳代 高松市在住

伊吹島に先祖の墓があります。

年に1~2回は墓参りに行きますが、この船はバイクと自転車しか運べないので、小型のフェリーがあれば便利なのですが。

今日も観音寺港発 11:20 の便で島に行き、伊吹島発 13:30 の便を利用しますが、島での滞在時間が短く、とんぼ帰りになります。

朝と夕の便の間にあと2便程度あれば便利なのですが・・・。

・女性 80歳代 伊吹島在住

通院するため、週 2 日利用しています。船の方々は親切で良くしてくれるので満足しています。観音寺港での乗合バスへの接続も良く、遅れがあった時もバスの運転手さんが待っていてくれるので助かります。

・女性 70歳代 伊吹島在住

通院するため、週 1 日利用しています。この船は横波に弱いので、冬場の安定性が悪いと感じています。できれば、双翼船や羽のついている揺れの少ない船を導入してほしいと思います。夏場は、船内のクーラー調整ができないので、船内だと寒くて辛いので、この時期はデッキでいることが多いです。

・女性 70歳代 観音寺市在住

墓参りのため、年 1 回位利用しています。この船になってから、昔は 30 分以上掛かっていたところ、早く到着するようになったので大変便利になりました。自動車が積み込める船だと、なお助かります。

また、欠航等で行き来できない時は、待合所のある建物で泊まることのできるの助かります。

・男性 60歳代 伊吹島在住

月 3 回位利用しています。特に冬場は欠航が多すぎるので困ります。距離が短い割に、運賃が高いと思います。

・女性 50歳代 徳島県在住

今回初めて、島へ観光に来ました。島内や船内で住民の方が、色々教えてくれ大変助かりました。

観光目的だと運賃に意見はありませんが、島民など幾度も利用している方から見れば現運賃では高いかも知れません。

・男性 20歳代 観音寺市内勤務

島民の顧客へ、集金や定期預金書換え等のため、月 1 回位利用しています。島への移動手段であるこの航路は必要不可欠です。

島から観音寺へ帰る際の便が少ないので、15:00 頃に便があれば大変助かります。

・男性 40歳代 観音寺市内勤務

工作上、台風等による影響で島内での復旧作業や月 1 回の島内での保守点検のために利用しています。欠航となると、作業が遅延するので島民の方々に影響が出ます。

波が 1.5m あるとよく欠航します。

この船は、自動車を積み込むことができないので不便です。今は、車を運ぶ必要があ

る際は、軽トラックを貨物スペースに積んでもらうか、別船をチャーターして運んでもらっています。

運航時間が不便なので、15:00 頃に便があれば、なお助かります。

★インタビューを終えての感想

島内を歩いてみると、急な坂が多く、空き家があちらこちらに点在していました。

小学校も中学校と統合したために、無人の小学校校舎がひっそりと建っており、全国的に人口減少や少子高齢化が進むなかで、離島の過疎化の現状を目にしました。

実際に伊吹～観音寺航路に乗船してみると、航路利用者の方々から航路を維持している事業者へ感謝の気持ちが多数聞かれ、住民にとって日常生活に必要不可欠な唯一の交通手段を確保しなければならないことを再認識しました。

利用者の運賃収入だけでは採算が合わないため、国や自治体からの補助を受けて航路を維持しており、今回の利用者インタビューで増便などのさまざまな意見がありました。

過疎化の進む離島では、航路を維持することは簡単ではありません。

四国運輸局としましても、引き続き、国、自治体、事業者が連携して地域公共交通のサービス向上にむけて考えていきたいと思います。

最後になりますが、島には食堂がないので、昼食は観音寺市内で香川県名物のさぬきうどんを食べました。

店には「うちの島で獲った”伊吹いりこ”は日本一じゃけん!」と印刷されたポスターが張っており、島民の多くが生計を立てられていると思われる伊吹産のいりこを使用した出し汁で、大変おいしくいただきました。

インタビュー実施日：平成23年7月26日（火）・聞き手：藤井、本木